

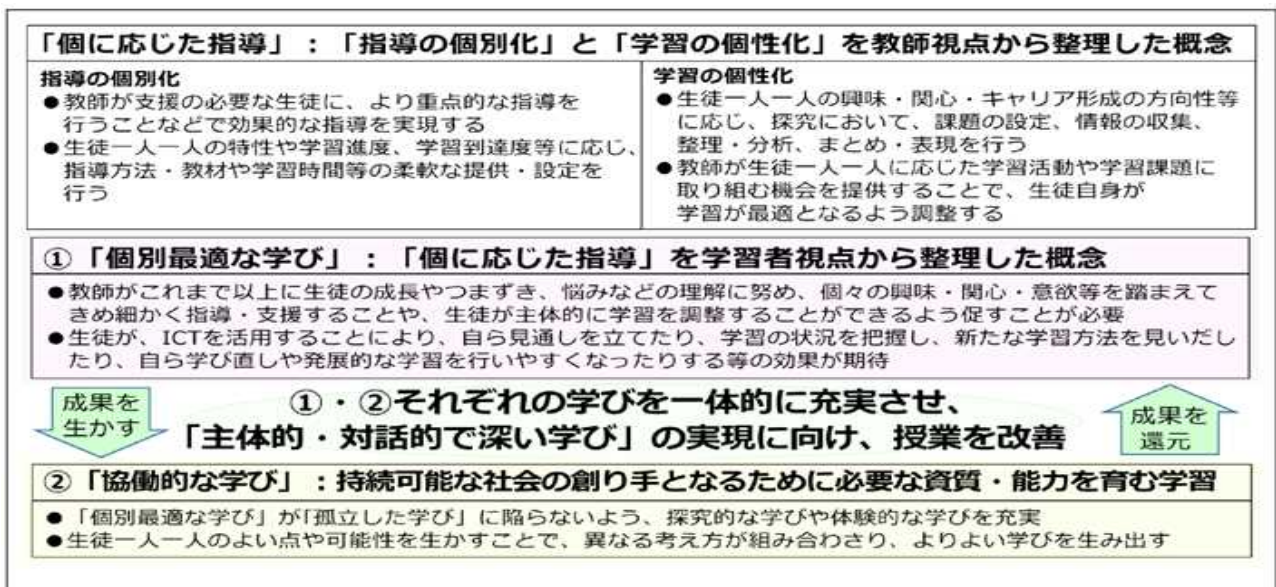
体 育

1 学習指導及び学習評価の改善・充実

(1) 専門学科「体育」における個別最適な学び、協働的な学び

学習指導要領において、体育科の目標は、「体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を育成する」とこととされており、スポーツへの多様な関わり方についての理解と実践、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与するための資質・能力を身に付けることなどを重視している。

体育科においては、教科の目標を踏まえながら、その上で、中央教育審議会答申『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～』で示された、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進することが重要である。



図：「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実のイメージ（『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き

なお、授業づくりでは、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の要素が組み合わさって実現されていくことが多く、「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かし、更にその成果を「個別最適な学び」に還元するなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実していくことが重要である。

その際、体育科は、スポーツを通じた専門教育の学習を希望する生徒に、生涯を通してスポーツと多様に関わり、スポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力の育成を目指した学科であるが、普通教育として、社会で求められる資質・能力を全ての生徒に育み、生涯にわたって探究を深める未来の創り手の育成を目指すといった高等学校教育の一層の充実にも寄与しようとするものであることに留意する必要がある。

また、障がいのある生徒などに対しては、体育科の学習においても、「障害者の権利に関する条約」に掲げられたインクルーシブ教育システムの構築を目指し、生徒の自立と

社会参加を一層推進していくため、生徒の十分な学びを確保し、一人一人の生徒の障がいの状態や発達の段階に応じた指導や支援を一層充実させていく必要があるが、その際、体育科の目標や内容を踏まえ、指導内容の変更や活動の代替を安易に行うことがないよう留意するとともに、生徒の学習負担や心理面にも配慮する必要がある。

(2) 専門学科「体育」における共通性の確保を目指した学び

高等学校においては、生徒の進路や各学科の抱える課題が一様ではない実態を踏まえ、「多様化への対応」を図りつつ、高等学校教育の質の確保・向上を目指すとともに、全ての生徒に、社会で生きてくために必要となる力等を共通に身に付けられるよう「共通性の確保」を進める必要がある。

いずれの高等学校の、いずれの課程・学科においても、共通して身に付けさせたい力として、「自己を理解し、自己決定・自己調整ができる力」、「自ら問いを立て、多様な他者と協働しつつ、その問いに対する自分なりの答えを導き出し、行動することのできる力」、「自己の在り方、生き方を考え、当事者として社会に主体的に参画する力」などが挙げられる。

こうした力を育成するために、次の視点を踏まえて授業改善を行うことが大切である。

- ・体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、健やかな心身の育成を図るとともに、生涯を通してスポーツを継続する資質・能力を高め、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てること。
- ・選択した科目の学習や課題研究等によって、「する、みる、支える、知る」などのスポーツへの多様な関わり方を自ら実践するとともに、我が国におけるスポーツの推進及び発展の担い手を育成すること。

(3) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるための学習評価

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けては、「主体的に学習に取り組む態度」についての評価を重視し、生徒が自ら学習の進め方を改善していくことができるよう指導・支援していくことが重要である。この観点は、「学びに向かう力・人間性等」の育成に当たっても重要であり、学習指導要領解説（体育編）では、体育科における「学びに向かう力・人間性等」について、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与することができるよう次の2点を示している。

- ・生涯にわたってスポーツを実践していく際の公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高めること
- ・スポーツの推進及び発展に寄与する自己の姿勢や他者、地域社会との関わり方などのスポーツの価値を高めることに意欲的に取り組むこと

なお、「主体的に学習に取り組む態度」の評価に際しては、単に継続的な行動や積極的な発言を行うなど、性格や行動面の傾向を評価するというのではなく、体育科の「主体的に学習に取り組む態度」の内容を身に付けるために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価することが重要である。

2 指導と評価の計画の例

○ 「スポーツⅤ：自然体験型の野外の運動への多様な関わり方」

(1) 単元の目標

- ア 自然との関わりの深い野外の運動の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付ける。
- イ 自然との関わりの深い野外の運動における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- ウ 自然との関わりの深い野外の運動の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を養う。

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○知識 ① 野外の運動を通して、スポーツを推進及び発展するための事項を言ったり書いたりしている。	①映像や記録など客観的なデータから、活動の改善点の妥当性や効果的な改善策について分析したことを、根拠を示し伝えている。	①多様性・共生などのスポーツを通した共生社会の実現に寄与する学習に主体的に取り組もうとしている。
○技能 ② 野外の運動を通して、良好な人間関係を形成する際に必要な、多様な楽しさや喜びを深く味わうための技能や野外の運動に関する各種技能を身に付けている。	②仲間間で分担した役割に関する成果や改善すべきポイントについて、自己の活動を振り返っている。	②地域への参画や仲間づくりなどのスポーツを推進及び発展するためのスポーツの価値を高める学習に主体的に取り組もうとしている。
③ 危機回避の際の行動及び事故発生時の応急手当の技能を身に付けている。	③自然環境下で危機回避及び緊急時の対応方法についてのよりよい改善点を指摘している。 ④多様な参加者と共に運動するための調整の仕方、交流会や宿泊体験の運営方法等を提案している。	

(3) 単元の指導と評価の計画（35時間）

時間	ねらい、学習活動等	知	思	主
6～15時間 【10時間】	【ねらい】 ・ 野外の運動を通して、良好な人間関係を形成する際に必要な、多様な楽しさや喜びを深く味わうための技能や野外の運動に関する各種技能を身に付ける。 ・ 映像や記録など客観的なデータから、活動の改善点の妥当性や効果的な改善策について分析したことを根拠に示し伝える。 ・ 多様性・共生などのスポーツを通した共生社会の実現に寄与する学習に主体的に取り組む。 【学習活動】 ・ 各グループで担当する活動について、効果的な活動とするための調べ学習を行う。 ・ 調べた内容を試行したり、実地調査したりすることで、改善すべきポイントを把握し、活動計画を修正する。 【活動内容】 [a 実施計画、b テントの設営や生活の仕方、c 野外料理、d 自然観察、e キャンプファイヤー、f 野外レクリエーション]	②	①	①
31～45時間 【15時間】	【ねらい】 ・ 危機回避の際の行動及び事故発生時の応急手当の技能を身に付ける。 ・ 自然環境下で危機回避及び緊急時の対応方法についてのよりよい改善点を指摘する。 ・ 地域への参画や仲間づくりなどのスポーツを推進及び発展するためのスポーツの価値を高める学習に主体的に取り組む。 【学習活動】 ・ 自己や他者の健康や自然環境の変化に留意しながら、それぞれのグループで計画を実践し、野外での活動を行う。 ・ 天候や突発的な変化に対し、危機回避に向けて計画を修正しながら、安全に活動を行う。	③	③	②

何をすべきか分からず、学習活動に参加することが難しい生徒には、手順・方法が理解できるよう、ICT端末を活用して、視覚的な明示を行う。

【協動的な学び】
ICT端末を活用し、グループ相互の活動内容について互いに助言し合える環境づくりを行う。

作成した計画は、実施後の反省において振り返る材料として活用し、更なる活動のブラッシュアップを図る。